8月の星空

上旬：22 時頃
中旬：21 時頃
下旬：20 時頃

ペガロク ©dwarf/ 多摩六都科学館

星座案内のつかいかた

星座盤は空にかざして方位を合わせて見てください。
（空と重ねると東西の向きが正しくなります）

☆惑星
★1等星
●2等星
・3等星
・4等星以下

多摩六都科学館
Tamarokuto Science Center

2019年 8月のおもな天文現象

8/1	新月	
8/7	伝統的七夕	（7月の「今月のポイント」参照）
8/8	上弦	※水星が空で太陽から最も西側に離れて見える日。前後数日間は明け方東の低空で見つけやすくなる。
	立秋	
8/9〜10	月と木星が並ぶ	
8/10	水星が西方最大離角※	
8/12	月と土星が並ぶ	
8/13	ペルセウス座流星群が極大	（月明かりの影響が大きく、条件は良くない）
8/15	満月	
8/23	下弦	
8/30	新月	

はくちょう座

はくちょうのしっぽの1等星「デネブ」のそばには、お腹にあたる2等星「サドル」が、さらに南側へ注意深くたどっていくと、くちばしの3等星「アルビレオ」が見つかります。3つの星をつないだ線に交わるように翼（つばさ）の星を結んで、空に はくちょうの姿を描いてみましょう！

今月のポイント

全編生解説プラネタリウム
『夏空にかがやく〇〇のナゾ』（まるまる）のみどころ

太陽、星、月、花火など、夏の空にはかがやくものが目白押しです。美しさを楽しむだけではなく、かがやくしくみを追究すると天体どうしのあっと驚く関係に気がつけるかもしれません。また、宇宙には一見暗いようでも「光」を出しているものもあります。
今日の空にはどんな「かがやきのナゾ」が潜んでいるのでしょうか。プラネタリウムでナゾを解き明かし、令和最初の夏空をより楽しみましょう！8/1(木)より投影開始！

月明かりと星の見え方

私たちにとって最もなじみ深い天体、「月」。昼間の空でも見られるほど明るい天体です。その明るさは、満月でマイナス 12.7 等級。明るさが 0 等級のこと座のベガよりも、約 12 万倍明るいことになります。

これほど明るいものが空にあると、星の見え方にも影響が及びます。たとえば、暗い星の集まりである天の川は大変見えづらくなり、流れ星による一瞬のかがやきも捉えにくくなってしまいます。一方で月は、明るい星を探すときには大変頼りになる目印となります。月の見える位置は日々変わりますので、木星や土星と並ぶ日などを狙って、月と星の共演もぜひご覧ください。